

## CEFR上位者のビジネス・ライティングのストラテジー調査と検証法の確立

中谷, 安男 / NAKATANI, Yasuo

---

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

14

(発行年 / Year)

2021-05-27

令和 3 年 5 月 27 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03026

研究課題名（和文）CEFR上位者のビジネス・ライティングのストラテジー調査と検証法の確立

研究課題名（英文）Exploring CEFR Effective Writing Strategies for Business Letters and establishing relevant research methods.

研究代表者

中谷 安男（Nakatani, Yasuo）

法政大学・経済学部・教授

研究者番号：90290626

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：日本人上位レベルに対応するビジネス・ライティング・ストラテジー（BWS）使用の質的・量的検証を実施した。まず国際ビジネスで活躍する被験者に質的インタビュー調査を行いBWSの調査を行った。次に英語ビジネスドキュメントのコーパスデータを作成し、効果的なWSの種類や頻度を抽出した。これらの結果導き出されたBWSを予備質問項目として作成しリカートタイプの質問紙を作った。まず160人の被験者に試行し因子分析を行い、他の項目と整合性の低い項目を削除した。この結果得た32の質問項目を整備し国際ビジネスで活躍する被験者160名に調査を行い、最終的に因子分析で信頼性及び妥当性の高い調査用紙を完成させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、既存では確立されていない上位Cレベルの書く能力の重要項目であるWSを、質的と量的なアプローチで明確にした。実際に業務に携わる者へのインタビューや、ビジネス文書の詳細な分析を通して、より妥当性のある研究となった。また、一定規模の被験者に対する統計手法の因子分析の導入により、信頼性のある実証分析が可能となった。このような検証に基づくWS使用を正確に把握できる調査用紙の構築は、ライティング学習の診断や目標設定として、大学だけでなく、実社会など様々な教育場面において活用が可能であり、該当分野における研究意義は大きいと考える。

研究成果の概要（英文）：We conducted a qualitative and quantitative verification of the use of the Business Writing Strategy (BWS) corresponding to the CEFR upper level of Japanese people. First, we conducted a qualitative interview survey of subjects who are active in international business. Next, we created corpus data for English business documents and extracted effective BWS types and their frequencies. The BWS derived from these results are created as a preliminary survey with a liquor-type questionnaires. By using this survey, we asked 160 subjects to report their use of BWA. The factor analysis was performed to avoid items that were inconsistent with other items. Through these processes we obtained relevant 32 question items. By using these items we conducted a survey of 160 subjects who are active in international business, and finally completed a highly reliable and valid survey form by factor analysis.

研究分野：言語学

キーワード：CEFR ビジネスライティング コミュニケーション・ストラテジー ビジネスライティング・ストラテジー調査用紙 因子分析 質的分析

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

外国語の学習・教育・能力評価の基本的枠組みであるヨーロッパ共通参照枠(**Common European Framework of Reference for languages**; 以下 **CEFR**)は、自律学習とそれを可能にする学習戦略(**Learning Strategy: LS**)の習得と運用を目標としている。これらの概念を日本の学習環境に導入する目的で **CEFR-J** が開発された(中谷, 2013a,b)。だが、英語プロダクション能力の上位レベルの目標設定は明確でなかった。このため研究代表者は、基盤研究(c) 課題番号 **26370743** で英語プレゼンテーションにおける学習戦略調査を実施し、経過報告を **Nakatani(2015)**, 中谷(2016a)で行った。しかし、もう一方のプロダクション能力ライティングの **WS** に関しては十分な研究は行われていない。上位者の **C** レベルでは、ビジネスにおいて高度な英語能力が必要であり、**CEFR** では **WS** は効果的な英文を書く上で重要な戦略として定義されている(**Council of Europe, 2001, p.23**)。だが、実際の学習者レベルや場面ごとの **WS** 使用に関する詳細な記述はほとんどなかった。

## 2. 研究の目的

これまでビジネスライティングに関する **LS** に関しては十分な検証が行われていない。特に **CEFR** におけるこの技能のディスクリプターの **C1, C2** レベルはまだ完成されていない(**Council of Europe, 2001, p.59**)。このため、この技能を正確に把握できる調査用紙構築のための研究は必須である。これが実現すれば、英語教育の現場に導入し、学習者の現状調査や、**WS** 習得のための目標設定の検証に活用できる。

以上のことから、本研究は日本の国際ビジネスパーソンに必要な英語のライティング・戦略(**Writing Strategy: WS**)に関する実証的調査及び検証法の確立である。**CEFR** は近年日本でも重要視されている。上位 **C** レベル(**C: Proficient User**)は英語で商取引を行う者であり、**WS** を駆使する能力も持つと定義されている。だが、**CEFR** では実際のビジネス文書で **WS** を導入し、効果的に顧客を説得する手法に関する具体的な報告はなく、その正確な調査方法も確立されていない。本研究は検証の妥当性を高めるため **WS** 使用に関する詳細なインタビュー調査、及び文書のコーパス分析を行った。この結果を基に、信頼性の高い調査用紙を統計的手法で構築し **WS** を正確に把握することを目指した。

## 3. 研究の方法

### (A) 質的インタビュー調査及び自由記述調査による WS の抽出

まずビジネスライティングにおける戦略の質的な調査として、国際ビジネスの第一線で活躍する被験者を 10 名選び **WS** を調査した。インタビューを基にライティングで有効な **WS** の認識の報告をコーパスデータとして保存した。この結果を活用し、自由記述を行うのに適切な質問内容を精査した。これらの質問を使いビジネスで英語を使う被験者 100 名に自由記述を実施した。これらの結果にテキストマイニング等を行い、質問紙項目を抽出した。

### (B) 英語ビジネスレター及びドキュメントのコーパスにおける WS 抽出

#### ・データ

2003 年から 2018 年に電子メール (e-mail) で英国の顧客に送られた 119 の文書を収集しテキストファイルに変換し保存した。この総語数 (Word Tokens) は 32,956 ワードで、3,620 のタイプの語彙 (Word Types) を含んでいた。次に、英国において 2002 年から 2018 年の間に、直接顧客に送られた紙ベースのビジネス文書 (snail mail) 90 通を収集した。これらをスキャナーでテキストファイルに変換し、ビジネス手紙文コーパスを作成した。こちらの総語数は 24,477 ワードで、語の種類は 2,318 タイプであった。

これら 2 つのコーパスを合わせて、実際のビジネス文である **RBLC** (Real Business Letter Corpus) を構築した。**RBLC** は、209 のビジネス文書で構成され、総語数は 57,433 ワードで 5,938 のタイプの語彙となった。

#### ・分析手法

どのような語彙が **RBLC** 特徴語であるか分析を行った。実際の手紙文である **RBLC** を、コンコーダンス・ソフト **AntConc** の Windows 版 3.5.7 を使い、使用頻度の高いワードリストを作成した。これらの特徴を明確にするために、一般的な英国書きことば **FLOB** コーパスと比較する目的で **AntConc** の特徴語彙分析機能を活用し、**Log Likelihood Test** を行った。特徴語としての値である **Keyness** の **Critical value** が 15.13 以上のものを **RBLC** 特徴語として抽出した。この値は、**Nelson (2006)** などのコーパス分析研究で妥当とされる値で、棄却率  $p < 0.0001$  の確率で特徴語としてみなせる。これら **RBLC** の特徴語が、どのような文脈で使われているのか調査するため、特定の語彙との結びつきの強い語群を解析するクラスター分析を行った。以上のコーパス分析成

果を基にビジネスライティングに必須のストラテジーを抽出した。

### (C) Business Writing Strategy Inventory (BWSI)の構築

上の(A)(B)の成果として導き出されたWSを、調査用紙の予備質問項目として作成し、リカートタイプの質問紙BWSI Ver.1を作った。この初期の調査項目は43の具体的なWSであった。これを一次的な調査紙として160人の被験者に試行した。この結果を最尤法のバリマックス回転を行い、因子負荷量の低い項目や、共通性に影響を与えない項目を削除し、調査項目の累積寄与率と信頼性係数を高めるように最終質問項目を選定した。結果として得た質問項目を整備し、国際ビジネスで活躍するビジネスパーソン160名に再度調査を行い、最終的に因子分析で信頼性及び妥当性の高い調査用紙を完成させた。

## 4. 研究成果

### (1) 初期の調査用紙 BWSI Ver.1

3で示した研究手法(A)(B)の質的インタビュー及び自由記述調査と、コーパス分析結果により、表1の様な初期の調査用紙を構築した。

表1 Business Writing Strategy Inventory Ver.1

英語ライティングに関するアンケート		日付			
あなたが英語でメールや手紙、文書などを書く時に以下の項目であてはまる数字に をして下さい。		性別	1 男	2 女	
5:とてもよくあてはまる, 4:よくあてはまる		英語ライティングの機会			
3:いづらかあてはまる, 2:通常あてはまらない		1 多い	2 時々		
1:全くあてはまらない		3 まれに	4 全くない		
英語のレベルが分かれば教えてください。例TOEICの点数等		点	レベル	級	
1	簡単なわかりやすい単語を使う	5	4	3	2 1
2	結論を先に書く	5	4	3	2 1
3	読み手の理解レベルを考えて書く	5	4	3	2 1
4	言いたいことを短く的確に伝える	5	4	3	2 1
5	同じ単語や表現を繰り返し使わないようにする	5	4	3	2 1
6	誤解を招かないように書く	5	4	3	2 1
7	あらかじめ読み手の背景や希望を調べる	5	4	3	2 1
8	ネガティブの表現をまねする	5	4	3	2 1
9	要点をまとめて書く	5	4	3	2 1
10	文法や語順に気をつける	5	4	3	2 1
11	なるべくたくさん英文を書く機会を持つ	5	4	3	2 1
12	読み手の注意を引くように心がける	5	4	3	2 1
13	場面や目的に応じて言葉の使い方を考える	5	4	3	2 1
14	あせらず、ゆっくり時間をかけて書く	5	4	3	2 1
15	定型文や決まった表現を覚えておく	5	4	3	2 1
16	ロジカルな文章を書くようにする	5	4	3	2 1
17	インターネットの情報を参照して書く	5	4	3	2 1
18	読み手の気持ちに配慮して書く	5	4	3	2 1
19	日ごろから書く練習をしておく	5	4	3	2 1
20	短く簡潔に書く	5	4	3	2 1
21	上司や専門家、同僚などに添削をもらう	5	4	3	2 1
22	送る前に何度も見直す	5	4	3	2 1
23	丁寧な表現を使う	5	4	3	2 1
24	相手に誤解されないように気をつけて書く	5	4	3	2 1
25	文章の流れに気をつけて書く	5	4	3	2 1
26	長い文章にならないように書く	5	4	3	2 1
27	意図が明確に伝わるように書く	5	4	3	2 1
28	論理的な構成になるように書く	5	4	3	2 1
29	自分で書くのが困難な場合は誰かに助けを求める	5	4	3	2 1
30	メールなどにはできるだけ早く返信する	5	4	3	2 1
31	最初に日本語で考えて英語に直す	5	4	3	2 1
32	具体例や具体的な数字を使う	5	4	3	2 1
33	相手の要求などが不明確な場合は内容の明確化を求める	5	4	3	2 1
34	返信を求める場合は相手に期限を伝える	5	4	3	2 1
35	自然な英語になるように心がける	5	4	3	2 1
36	辞書やマニュアルを参考にして書く	5	4	3	2 1
37	相手にしてほしい行動を明確に伝える	5	4	3	2 1
38	読み手に価値があるように書く	5	4	3	2 1
39	ネガティブな表現は使わないようにする	5	4	3	2 1
40	全体がわかりやすい構成にする	5	4	3	2 1
41	日本のビジネスマナーと違う点を意識して書く	5	4	3	2 1
42	相手の国の文化に配慮して書く	5	4	3	2 1
43	書く内容をあらかじめ決めてから書く	5	4	3	2 1

(2) 因子分析結果

(1) で示した Business Writing Strategy Inventory Ver.1 を活用し、英語を業務で使用するビジネスパーソン 160 名の被験者に対して WS 使用認識の調査を行い、最尤法のバリマックス回転の因子分析を行った。因子負荷量の低い項目や、共通性に影響を与えない項目を削除し、調査項目の累積寄与率と信頼性係数を高めるように最終質問項目を選定した。結果的に信頼性と妥当性の高い 32 の項目を確定することができた。この 32 項目を活用し、再び 160 名の被験者に WS の使用認識を調査し、回答に対して最尤法のバリマックス回転の因子分析を行った。

この結果を表 2 に掲載している。以上の研究の成果として 8 つの WS と 32 の下部ストラテジーで構成される信頼性と妥当性の高い Business Writing Strategy Inventory (BWSI) を完成することができた。

表 2 最終因子分析結果に基づく Business Writing Strategy Inventory (BWSI)

項目	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8	共通性
<b>ストラテジー1 一貫性構築ストラテジー</b>									
1 27 意図が明確に伝わるように書く	.724	.285	.095	.117	.200	.089	.047	-.021	.679
2 26 長い文章にならないように書く	.712	.291	.053	-.080	.060	.183	.019	.145	.659
3 28 論理的な構成になるように書く	.672	.100	.058	.152	.128	.192	.182	-.010	.575
4 25 文章の流れに気をつけて書く	.668	.051	.176	.182	.230	.209	.188	.114	.659
5 24 相手に誤解されないように気をつけて書く	.586	.099	.350	.296	.259	.086	.026	.077	.645
6 40 全体がわかりやすい構成にする	.556	.263	.132	.177	.174	.321	.118	-.008	.574
7 20 短く簡潔に書く	.550	.331	-.113	.080	.193	.167	.074	.075	.508
<b>ストラテジー2 内容構成明確化ストラテジー</b>									
8 4 言いたいことを短く的確に伝える	.313	.765	-.012	.138	.156	.223	-.070	.067	.786
9 2 結論を先に書く	.245	.636	.128	.055	.353	-.015	.046	.075	.617
10 5 同じ単語や表現を繰り返し使わないようにする	.220	.474	.216	.108	-.055	.107	.111	.005	.358
11 9 要点をまとめて書く	.373	.452	.118	.398	.239	.151	.127	-.020	.611
<b>ストラテジー3 正確さ構築ストラテジー</b>									
12 36 辞書やマニュアルを参考にして書く	-.024	-.022	.581	-.133	.169	.190	.033	.114	.435
13 14 あせらず、ゆっくり時間をかけて書く	.071	.125	.552	.038	-.024	.013	.143	.034	.349
14 17 インターネットの情報を参照して書く	.011	.109	.514	.217	.070	.227	.010	.165	.407
15 22 送る前に何度も見直す	.368	-.073	.495	.074	.127	.006	-.005	.196	.446
16 10 文法や語順に気をつける	.249	.361	.457	.212	.008	.022	.266	-.045	.519
<b>ストラテジー4 読み手中心ストラテジー</b>									
17 3 読み手の理解レベルを考えて書く	-.007	.396	-.020	.577	.165	.139	.162	.020	.564
18 13 場面や目的に応じて言葉の使い方を変える	.283	.335	.105	.554	-.025	.015	.300	.077	.607
19 18 読み手の気持ちに配慮して書く	.239	-.092	.217	.545	.221	.346	.201	-.007	.620
20 7 あらかじめ読み手の背景や希望を調べる	.186	.068	.007	.484	.073	.352	.296	.119	.504
<b>ストラテジー5 情報の明示化ストラテジー</b>									
21 37 相手にしてほしい行動を明確に伝える	.321	.182	.372	.025	.545	.104	-.120	-.096	.607
22 32 具体例や具体的な数字を使う	.078	.173	-.062	.084	.542	.193	.122	.209	.436
23 34 返信を求める場合は相手に期限を伝える	.214	.029	.109	.058	.542	.135	.058	.050	.379
24 33 相手の要求などが不明確な場合は内容の明確化を求める	.332	.123	.095	.319	.537	.019	-.019	.209	.569
<b>ストラテジー6 異文化理解ストラテジー</b>									
25 42 相手の国の文化に配慮して書く	.180	.038	.067	.375	.185	.623	.037	.034	.604
26 38 読み手に価値があるように書く	.225	.104	.143	.076	.334	.513	.151	-.009	.484
27 39 ネガティブな表現は使わないようにする	.270	.204	.198	.043	-.036	.484	.044	.053	.395
28 41 日本のビジネスマナーと違う点を意識して書く	.333	.148	.184	.078	.242	.474	.106	.000	.468
<b>ストラテジー7 自己トレーニングストラテジー</b>									
29 19 日ごろから書く練習をしておく	.107	.031	.144	.120	.008	.204	.837	.151	.813
30 11 なるべくたくさん英文を書く機会を持つ	.139	.090	.094	.257	.105	.017	.676	-.001	.570
<b>ストラテジー8 補助要求ストラテジー</b>									
31 29 自分で書くのが困難な場合は誰かに助けを求める	-.006	.099	.197	.052	.068	.041	-.040	.820	.731
32 21 上司や専門家、同僚などに添削をしてもらう	.156	-.019	.106	.031	.144	.014	.183	.710	.596
因子寄与	4.194	2.405	2.036	2.033	2.004	1.916	1.727	1.462	
適合度	乖離度 = 2.132 CFI = .967								
	<sup>2</sup> 値 = 303.124 RMSEA = .041								
	DF = 268 AIC = 795.015								
信頼性係数	係数は太字の項目から計算（負荷量が負のものは逆転）								
	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8	
係数	.892	.780	.694	.762	.726	.743	.777	.758	
係数	.908	.821	.745	.815	.763	.772	.806	.793	
因子得点	.756	.688	.642	.568	.584	.563	.732	.740	

今後は、この BWSI をリッカードタイプの質問紙に編集することで、今後は教育やビジネスの現場で広く活用していくことが可能である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 87巻 1・2号
2. 論文標題 英文エッセイの自動レベル判定システムと手動採点結果の比較検証：CEFR-Jライティング・テストタスク構築ための予備調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 21 - 50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中谷安男	4. 巻 78
2. 論文標題 英文ビジネスレターにおける効果的なライティング・ストラテジー：コーパス分析による検証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際ビジネスコミュニケーション学会研究年報	6. 最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakatani Yasuo	4. 巻 4
2. 論文標題 A case Study of Cross-cultural Business Conflicts between U.S. and Japan: Beyond the CEFR	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 HALC 2019 CONFERENCE PROCEEDINGS	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中谷安男	4. 巻 87巻3・4号
2. 論文標題 経済学・経営学分野の論文におけるCritical Reviewの方法とLiterature Reviewの書き方に関する考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 11-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 2019
2. 論文標題 CEFR の到達目標に準じた 4 技能試験に対応する ライティング指導法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語エキスポ2019予稿集	6. 最初と最後の頁 86-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 85巻4号
2. 論文標題 グローバル・ビジネスにおけるライディング・ストラテジー使用の検証	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 699 - 725
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 86巻2号
2. 論文標題 社会科学, 人文科学, 自然科学分野の国際ジャーナルにおける考察の章の分析 : 緩衝表現ヘッジの検証	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 87-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 77号
2. 論文標題 ゲリラ・マーケティングの再考 ラオス・コカ・コーラの事例研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際ビジネスコミュニケーション学会年報	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Stroud, R.	4. 巻 2
2. 論文標題 An Analysis of Goals Driving the Development of English Conversation Skills among Japanese University Students	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Hosei University Economics Review	6. 最初と最後の頁 67-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuo NAKATANI	4. 巻 6
2. 論文標題 The Applicability of Emotional Intelligence through CEFR towards Enhancing Cooperative Teaching and Self-learning in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 WWA Journal	6. 最初と最後の頁 18-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 76
2. 論文標題 ビジネスパーソンの英語プレゼンテーションにおけるコミュニケーション・ストラテジーの検証	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際ビジネスコミュニケーション学会年報	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuo NAKATANI	4. 巻 3/ 11
2. 論文標題 Exploring Writing Strategies for Guiding Readers: The Use of Metadiscourse in CEFR-Based Textbooks	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Management and Applied Science	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 85/1
2. 論文標題 学術論文における結果報告の検証：社会科学，人文科学，自然科学分野の国際ジャーナルの分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 77 103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 13件）

1. 発表者名 Nakatani Yasuo
2. 発表標題 A Case Study of Cross-Cultural Business Conflicts between U.S. and Japan: Beyond the CEFR
3. 学会等名 4th International Conference on History, Art, Literature and Culture in Black Sea Region and South Caucasus（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakatani Yasuo
2. 発表標題 How to Write Persuasive Introduction in Academic Journals
3. 学会等名 1st Annual Conference of The International Society for Academic Researchers（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasuo Nakatani
2. 発表標題 Exploring Goals for Business Writing Strategy Training
3. 学会等名 The 2018 Costa Rica Global Conference on Business and Finance（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuo Nakatani
2. 発表標題 How to Write Research Papers for International Journals: Creating a Research Niche and Occupying the Niche"
3. 学会等名 The 57th JACET International Convention (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuo Nakatani
2. 発表標題 Toward a Leading Global University: Enhancing Academic Writing through CEFR-based Tasks
3. 学会等名 2nd International Conference on Education and Technology 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 アカデミックライティングにおけるヘッジの活用：研究論文における Discussion のコーパス分析
3. 学会等名 英語コーパス学会 第 44 回大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 英文ビジネスレターにおける効果的なライティングストラテジー：コーパス分析による検証
3. 学会等名 国際ビジネスコミュニケーション学会第78回全国大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 ビジネス研究の効果的な成果報告方法：国際学術論文におけるイントロダクション章のコーパス分析
3. 学会等名 第25回国際ビジネス研究学会全国大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 CEFR の到達目標に準じた 4 技能試験に対応するライティング指導法
3. 学会等名 言語教育エキスポ 2019
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuo NAKATANI
2. 発表標題 How to Write Research Papers for International Journals: Writing Persuasive Introduction
3. 学会等名 JACET 56th International Convention (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakatani, Yasuo ; Mishina, Yukiko; Black, Grant
2. 発表標題 How Can We Organize Academic Writing Classrooms for Global Education?
3. 学会等名 JACET 56th International Convention (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 アカデミック・ライティング指導の考察：イントロダクションにおける研究価値の訴求
3. 学会等名 第23回日英・英語教育学会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 ゲリラ・マーケティングの再考 ラオス・コカ・コーラの事例検証
3. 学会等名 国際ビジネスコミュニケーション学会第77回全国大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yasuo NAKATANI
2. 発表標題 A Corpus Analysis of Business Leaders Presentation on the TED Talks: Implications for Developing Tasks based on CEFR
3. 学会等名 ABC 82nd Annual International Conference（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yasuo NAKATANI
2. 発表標題 Active Learning for University Students
3. 学会等名 2018 7th ICLMC（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 投野由紀夫 中谷安男 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 254
3. 書名 教材・テスト作成のためのCEFR-Jリソースブック	

1. 著者名 佐野富士子 中谷安男 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 300
3. 書名 授業力アップのための英語教師自己啓発マニュアル	

1. 著者名 Nakatani Yasuo	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Kinseido	5. 総ページ数 132
3. 書名 Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals	

1. 著者名 木嶋恭一、岸真理子、妹尾大、佐藤亮、伊東暁人、藤井章博、出口弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 255
3. 書名 経営情報学入門	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤井 章博  (Fujii Akihiro)  (40241591)	法政大学・理工学部・教授    (32675)	
研究分担者	STROUD ROBERT  (Stroud Robert)  (50789047)	法政大学・経済学部・准教授    (32675)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関